

「令和元年度 読書のまち・かわさき」表彰団体の紹介

このたび、市立図書館とも深いつながりのある「絵本の会 あいあい」と「虹の会」が、読書のまち・かわさき『読書活動優秀団体』として11月3日「読書の日のつどい」において表彰されました。表彰された皆様、おめでとうございます。今後のますますのご活躍を期待しています。

〈絵本の会 あいあい〉

平成15年(2003年)から活動を開始し、大師分館や川崎区内のわくわくプラザで、おはなし会や読み聞かせを定期的に行っています。

子どもも大人も一緒に絵本の世界を楽しんで過ごせる場作りを目指し、折にふれ、絵本に登場する身近な実物を見せたり触れさせたりしながら、豊かな感性の育成につながるよう取り組んでいます。



〈虹の会〉

平成27年(2015年)から活動を開始し、麻生区内の児童養護施設である白山愛児園の地域交流スペースでおはなし会を実施しています。

長く地域に根ざしていた「ゆりがおか児童図書館」の理念を継承し、本と人とのつながりをつくり、地域の子どものための図書活動を行っています。



～多摩区郷土史入門講座 開催報告～

多摩図書館では毎年、稲田郷土史会との共催で「多摩区郷土史入門講座」を開催しています。

今回は、「文学と民俗で読み解く多摩区の歴史」をテーマとし、11月10日(日)と11月24日(日)の2回にわたり、多摩市民館で開催しました。

1回目は「多摩区の文学碑をめぐる」と題し、稲田郷土史会の山村辰男氏・鶴見邦男氏を講師として、多摩区内に多く残された碑について読み解いていきました。内容は鎌倉時代から昭和に至るまで多岐にわたりましたが、中でも参加者の興味をひいたのが、広福寺にある「彦根藩士・畑権助 辞世の句碑」でした。畑権助は彦根藩士として桜田門外の変に遭遇した際に刀を捨てて逃亡し、広福寺まで逃げ延び、そこで頭を丸め寺男として余生を送った人物です。辞世の句碑は崩し字がひどく、かつて小説家の吉村昭氏が調査して断念したものを、稲田郷土史会会員が初めて解読に成功しました。

2回目は「多摩区の民間信仰」と題し、川崎市市民ミュージアムに長年勤務し、現在は横浜市にあるシルク博物館副館長を務める高橋典子氏を講師にお迎えして、川崎市内で広く行われていた伝統行事や民間信仰について解説していただきました。ここで注目を集めたのは、多摩川流域で信じられていた「ミカリバアサン」の伝承でした。「ミカリバアサン」の伝承は地域によって異なりますが、おおむね人々に害をなす妖怪のような存在であり、人々は供え物をしたり籠を立てたりして、「ミカリバアサン」を避けるしきたりがありました。

両日とも、参加された方々は皆熱心に聞き入っていました。

この「多摩区郷土史入門講座」は来年度も予定されています。興味のある方はぜひご参加ください。

○ 稲田郷土史会とは

昭和42年(1967年)創立。市内有数の郷土史研究団体として、主に多摩区を中心に地域テーマの研究・文化財の保護・郷土史の普及・史跡見学会・機関紙「あゆたか」発行などの活動をしています。多摩図書館との共催企画には「ふるさとなんでも相談会」「多摩区郷土史入門講座」があります。

事務局：多摩図書館内 TEL 044-935-3400



機関紙「あゆたか」

編集・発行 川崎市立中原図書館 〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-1301 TEL 044-722-4932

川崎図書館(200-7011) 高津図書館(822-2413) 麻生図書館(951-1305) 大師分館(266-3550) 橘分館(788-1531)
幸図書館(541-3915) 宮前図書館(888-3918) 田島分館(333-9120) 柿生分館(986-6470)
中原図書館(722-4932) 多摩図書館(935-3400) 日吉分館(587-1491) 菅覧所(946-3271)